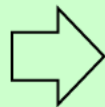


先を見据えた多品目生産で安定した収益を図る複合経営者 ～浅生哲也氏（三重県津市）～

経営体の概要

経営転換前：平成8年度
基幹作物：水稲、養豚（一貫経営）
経営面積：1.8ha



現在：令和2年度
基幹作物：水稲、飼料用稲・飼料用米、麦、飼料用麦、
大豆、露地野菜、施設野菜、養豚
経営面積：80.5ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成8年頃までは、養豚一貫経営で三重県のブランド豚（さくらポーク）を生産していたが、養豚以外の経営の柱を作るため、平成13年頃から高齢化した地域の農家から受託を始め、延べ80ha作付けをしている。国営事業により安定して用水が供給された水田を中心に、主食用米、麦、大豆、飼料用の米・稲・麦など多品目に取り組むことでリスクを分散し、経営の安定を図っている。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

地域の畜産農家と共同で堆肥舎を整備し、畜産排泄物を堆肥化して水田に還元している。堆肥を入れることで化学肥料を減らした土作りを行っている。大豆については、狭畦栽培で中耕作業が不要になり、専用の機械（播種、除草）が不要になった。施設野菜については、新たな作物に取り組み、継続して栽培している。

②流通・販売の工夫

麦、大豆、業務・加工用キャベツはJA出荷、飼料用の米・稲・麦は地元畜産農家、主食用米の一部と豚肉は業者販売、施設野菜は直売所やスーパーの産直コーナーというように品目に応じて出荷先を選定している。JAの経営管理委員及び受託部会会長として付加価値を付ける工夫や幅広い販路の開拓等により、産地として有利に取引できるような取り組みの推進をJAに提案している。

③担い手の育成・確保

後継者が4年前に就農し、新しい経営の柱になる施設野菜の生産を担当し、高品質で安定した生産量の確保のため、栽培技術を磨いている。また、野菜農家を目指す研修生を2年程受け入れ、必要な資格を経営体の負担で随時取得させながら、農業経営のノウハウについて伝授し、2名の独立に貢献している。



浅生代表



施設野菜のハウス

事業概要

事業種：国営施設機能保全事業
関係市町：津市、亀山市
受益面積：3,183ha
事業期間：平成24年～令和5年
事業目的：用水改良
主要工事：ダム1箇所、頭首工1箇所、
用水路L=0.9km、水管理施設一式

位置図（三重県）



<問い合わせ先>

東海農政局
農村振興部農地整備課
課長補佐（競争力強化事業推進）
電話：052-223-4638

（令和2年度調査時点）